

JFRグループが目指すサーキュラー・エコノミー



大量生産・大量消費・廃棄が前提となる直線型のリニア・エコノミーにより、資源不足、地球温暖化、廃棄物処理の問題など様々な地球環境問題が深刻化する中、サーキュラー・エコノミーの重要性が高まっています。当社グループは、環境課題に係るリスク低減と、新たなビジネス機会獲得の両立を目指し、お客様やお取引先様とも協働しながら資源循環の取り組みを加速させていきます。

環境に配慮したファッションサブスクリプション事業「アナザーアドレス」

アップサイクルブランド「reADdress」を新展開

大丸松坂屋百貨店が2021年3月にスタートした「AnotherADdress(アナザーアドレス)」は、ファッションの本質的な価値や、サステナブルな取り組みを重視し、社会や環境にとって持続性の高いビジネスモデルへ転換することを目指すファッションサブスクリプション事業です。

2023年12月には、シミや汚れ、傷など、レンタルが難しくなった衣類等に新たな価値を施し、寿命を延ばすことでもう一度楽しんでもらいたいという想いから、アップサイクルブランド「reADdress(リアドレス)」を立ち上げました。100年以上の歴史を誇る株式会社京都紋付との協業により、深黒染めを施したアップサイクル商品を実現しました。



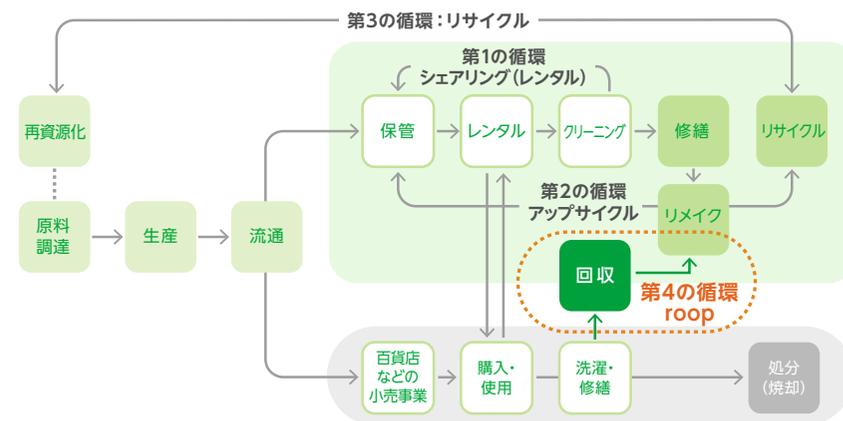
衣類循環プロジェクト「roop」が環境省のデコ活推進事業に採択

アナザーアドレスは、2024年、環境省が選定する環境配慮行動普及促進事業費補助金及び二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金(「デコ活」)推進事業)に採択されました。

※環境省が推進する脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動の愛称



サービス利用者や百貨店事業との連携による「衣類回収」の仕組みを新たに加えることで、生活者参加型の「第4の循環：roop」が実現。思い入れのある大切な服が循環し続け、未来に繋がる社会を目指します。



トップメッセージ	マテリアリティ	2024～2026 中期計画	ステークホルダー エンゲージメント	サステナビリティの 歩み	環境	社会	ガバナンス	社外からの評価	サステナビリティボンド レポート	データ集
----------	---------	-------------------	----------------------	-----------------	----	----	-------	---------	---------------------	------

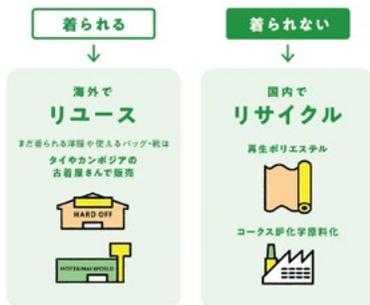
環境に関するKPIとその進捗 脱炭素化 → **サーキュラー・エコノミー** 生物多様性保全 TCFD・TNFD提言に沿った情報開示

お客様とともに取り組む「エコフ」

大丸松坂屋百貨店が2016年度からスタートした「エコフ」は、百貨店の店頭において、お客様から不要な衣料品や靴、バッグなどを回収し、リユースやリサイクルする持続可能な取り組みです。お客様の環境意識の高まりと積極的な参加によって毎年成長を続け、2023年度の回収量は377t(2016年度からの累計回収量1,845t)となりました。

回収した衣料品・靴・バッグはこれまでも海外でリユースしていましたが、2024年春の開催からは、タイやカンボジアの古着屋を通じて必要とくださる方々にお届けできるよう連携し、サプライチェーンの透明性を高めました。

また、環境活動を支援する「エコフ チャリティー募金」にも取り組んでいます。衣料品回収時に「WWFジャパン」「緑の募金(国土緑化推進機構)」の2団体から寄付先をお選びいただき、ご賛同いただいたお客様の人数に応じて、おひとり様につき10円を寄付しています。



衣類・ファッション雑貨の不要品回収「PASSTO(パスト)」

パルコは、2024年6月から、株式会社ECOMMITと、地域の廃棄物の削減・資源循環への貢献を目的として、不要品の回収・選別・再流通を一気通貫で行うECOMMITのサービス「PASSTO」を6店舗(渋谷PARCO・池袋PARCO・吉祥寺PARCO・ひばりが丘PARCO・調布PARCO・博多PARCO)に導入しました。



使用済み食廃油の資源循環～「Fry to Fly Project」への参画

FRY to FLY Project



大丸松坂屋百貨店は、2023年9月、持続可能な航空燃料(SAF: Sustainable Aviation Fuel)の国内初となる大規模生産を目指した食廃油(使用済み食用油)の資源循環の取り組み「Fry to Fly Project」に参画しました。

2024年9月末現在、大丸松坂屋百貨店の8店舗のレストランや総菜店等から出る食廃油を提供しています。これらの店舗から発生する食廃油は、1年あたり約98.7t(2023年度実績)で、全店舗の総排出量の約6.4%を占めています。今後も提供店舗の拡大を図るとともに、国産SAFの認知向上、普及の契機となるイベントの開催などを通して、お客様に資源循環の重要性を伝えていきます。

サプライチェーンの構築 JGC



※ 百貨店の店舗から排出される食廃油をレポインターナショナルが収集し、SAFFAIRE SKY ENERGYへ引き渡します。SAFFAIRE SKY ENERGYは、2024年度下期～2025年度初頭の生産開始を目指し、大阪府堺市で建設中の日本初となる国産SAFの大規模生産プラントにおいて、レポインターナショナルから引き取った食廃油を原料としてSAFを製造します。日揮ホールディングスは、食廃油を原料とするSAF製造事業に関するサプライチェーンの全体構築を行います。

プラスチックの資源循環

海洋プラスチックごみのアップサイクル

博多大丸では、2022年11月、長崎県対馬市と「SDGs推進に関する包括連携協定」を締結しました。地形や海流など様々な要因によってもたらされる対馬市の海洋プラスチックごみ問題へのアプローチとして、漂着した海洋プラスチックごみをオーナメントにアップサイクルしたクリスマスツリーを作成し、店舗前広場に飾りました。

2023年はテーマである「Circulation(循環)」のアイコンとして、廃プラスチックや海洋プラスチックごみを使用した“フラワーポット”を作成しました。このポットは、博多大丸 九州探検隊が立ち上げた「プレシャスプラスチック九州」が、国内8団体・海外3団体との共創プロジェクトで生まれたものです。今後は、このフラワーポットプロジェクトを、対馬市をはじめとした九州各地で地域の方々と共に共創ワークショップを行いながら活動を広げていきます。



海洋プラスチックごみを使用したフラワーポット



プラスチック製カバーのリサイクル「POOL PROJECT」

大丸東京店、松坂屋上野店は、2021年12月から、衣料品の納品時に付帯するプラスチック製カバーの回収・リサイクルを行う「POOL PROJECT TOKYO」に参画しています。

これは、レコテック株式会社が、東京都内の参画商業施設から発生したプラスチック製カバーを回収し、高度マテリアルリサイクルを行う取り組みです。再生されたプラスチックは、発生元から輸送・減容・加工などの全ての過程でトレーサビリティがとれた PCR 材* “POOL 樹脂”として製造業者へ販売されます。

今後、新たな製品化や事業化が検討されており、当社グループも、このような取り組みに参画することで積極的に資源循環を推進していきます。

*消費者が製品を使用した後に回収されるリサイクル材であるポストコンシューマーリサイクル材



廃プラスチック削減に向けて

大丸松坂屋百貨店では、2022年4月に施行された「プラスチック資源循環促進法」を受け、使い捨てプラスチックの排出量抑制に取り組んでいます。特定プラスチック使用製品*については、①カトラリーの有料化、②お客様へのお声がけ(必要な方のみ提供)、③カトラリーの素材変更のいずれかをお取引先様との協働で実施し、お客様のご理解を得ながら使用量の削減を推進しています。

*商品の販売または役務の提供に付随して消費者に無償で提供されるプラスチック使用製品



2023年度 使い捨てプラスチック製品 使用量削減実績

削減目標 (2021年度比)	実績		
	使用量(原単位)*	削減率	達成率
▲25%	0.0791	▲93.6%	301.8%

*単位設定：協働するお取引先様の店舗における使い捨てプラスチック製品 使用量合計(kg)/協働するお取引先様の店舗における売上高(百万円)